

SASBスタンダードに則した情報開示

■前提条件

- ・ 当社は、SASBスタンダード分類の「インフラストラクチャー／不動産」に該当しており、当業界の開示フレームワークに沿って情報開示を行います。
- ・ サブセクター分類は、SASBスタンダードに規定の通り、GRESB分類に準拠したものとしています。
- ・ 本数値の対象範囲は、三菱地所の持分が20%以上の物件であり、SBTやRE100とは対象範囲が異なっています。
- ・ SBTやRE100の対象物件に関する環境関連数値については、第三者保証を取得(※)していますが、本数値は第三者保証を取得していません。

※第三者保証書リンク

<https://mec.disclosure.site/j/sustainability/activities/independent-assurance/>

■サステナビリティ開示トピックと会計指標(2020年度データ)

<エネルギーマネジメント>

	単位	コード	オフィス	商業／SC	娯楽施設	ヘルスケア	駐車場	その他
総床面積の割合によるエネルギー消費データ計測範囲	床面積 当たりの%	IF-RE-130a.1	100	100	100	100	100	100
データ計測を実施しているポートフォリオの総エネルギー消費量	Mwh	IF-RE-130a.2	977,608	143,650	2,409	2,298	1,692	449
グリッド電力の割合	Mwh	IF-RE-130a.2	0	0	0	0	0	0
再生可能エネルギーの割合	%	IF-RE-130a.2	3.11	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00
データ計測を実施しているポートフォリオ全体のエネルギー消費量の同一条件下（L-f-L）での経年変化率	%	IF-RE-130a.3	▲ 8.42	▲ 9.17	-	0.07	▲ 20.73	▲ 29.15
エネルギー格付を取得している適格ポートフォリオの割合	床面積 当たりの%	IF-RE-130a.4	1.85	0	0	0	0	0
環境不動産認証を受けた適格ポートフォリオの割合	床面積 当たりの%	IF-RE-130a.4	18.52	5.26	0	0	0	0
	単位	コード	内容					
建物のエネルギーマネジメントへの配慮が資産投資分析や事業戦略にどのように組み入れられているかについての説明	該当なし	IF-RE-130a.5	三菱地所は、グループ全体のCO2削減目標(2019年度比で、2030年度までにScope1、2の合計を70%以上、Scope3を50%以上削減、2050年までにScope1、2、3においてネットゼロ達成)について、2022年6月にSBTiの認定を受けています。また、2020年1月にRE100に加盟しており、再生可能エネルギー由来の電力(以下、再エネ電力)利用割合を2025年までに100%まで高めることも目標として掲げています。本目標の達成に向けて、保有・運営する施設への再エネ電力の導入や、敷地内での再エネ電力の発電を積極的に推進していく方針です。また、不動産環境認証についても、積極的に取得を進めていきたいと考えております。TCFDのフレームワークに基づくシナリオ分析*においても、環境性能が低いビルや再エネ電力の導入を行っていないビルの空室率上昇・賃料低下がリスク要因として挙げられることから、上記取り組みを早期に進めていくことで、市場での競争力の維持・向上に努めていく所存です。 * https://mec.disclosure.site/j/sustainability/activities/environment/tcfdf/					

<ウォーターマネジメント>

	単位	コード	オフィス	商業／SC	娯楽施設	ヘルスケア	駐車場	その他
総床面積の割合による取水データ計測範囲、	床面積 当たりの%	IF-RE-140a.1	100	100	100	100	100	100
水ストレスが「高い」「極めて高い」地域の床面積に対する割合	床面積 当たりの%	IF-RE-140a.1	0	0	0	0	0	0
データ計測を実施しているポートフォリオの総取水量	千㎡	IF-RE-140a.2	2,589	610	11	10	6	2
水ストレスが「高い」「極めて高い」地域の割合	%	IF-RE-140a.2	0	0	0	0	0	0
資産サブセクターごとの、データ計測を実施しているポートフォリオ全体の取水量の同一条件下（L-f-L）での経年変化率	%	IF-RE-140a.3	▲ 11.26	▲ 0.19	-	▲ 36.77	▲ 27.07	▲ 36.38
	単位	コード	内容					
ウォーターマネジメントにおけるリスクの議論、およびリスク低減に向けた戦略と取り組みに関する説明	該当なし	IF-RE-140a.4	当社は、主に上水の使用水を施設内の設備で浄化し、トイレの洗浄水などに活用しています。このように、中水*利用を推進することで、将来的な水リスクを低減するために、2030年まで継続して中水設備の導入率を100%とする目標を掲げ、その着実な実践に取り組んでいます。 *上水として生活用水に使った水を、下水道に流す前に再生処理をしてトイレ用水や散水、冷却・冷房用水、清掃用水などとして再利用する水					

<テナントのサステナビリティインパクトのマネジメント>

	単位	コード	オフィス	商業／SC	娯楽施設	ヘルスケア	駐車場	その他
資源効率に関連する資本改善に対するコスト回収条項を含む新規リースの割合	床面積 当たりの%	IF-RE-410a.1	43.16※					
関連リース床面積	㎡	IF-RE-410a.1	1,373,812					
グリッド電力消費	床面積 当たりの%	IF-RE-410a.2	0	0	0	0	0	0
取水を個別に、またはサブメーターで計測しているテナントの割合	床面積 当たりの%	IF-RE-410a.2	未集計					
	単位	コード	内容					
テナントのサステナビリティインパクトを測定、動機づけ、改善するためのアプローチに関する議論	該当なし	IF-RE-410a.3	テナントと協働で各種環境関連の取り組みを推進・改善すべく、テナント向けに省エネ関連の取り組み事例等を紹介するガイド（サステナビリティガイド）の作成、ならびに契約書雛形にグリーンリース条項を新設するなどの対策を行っています。また、首都圏のISO14001対象ビルにおいて、地球温暖化協議会を毎年開催し、CO2排出や省エネの進捗状況、省エネの取り組み事例などの紹介を行っています。					

※全国事務所の貸付面積に対する割合

<気候変動適応>

	単位	コード	オフィス	商業／SC	娯楽施設	ヘルスケア	駐車場	その他
100年確率洪水地域にある資産の面積	㎡	IF-RE-450a.1	未集計					
	単位	コード	内容					
気候変動リスクエクスポージャー分析、体系的ポートフォリオエクスポージャーの程度、リスク低減戦略に関する説明	該当なし	IF-RE-450a.2	詳細は、「TCFDフレームワークに則した情報開示」における、「(2) 戦略」の箇所をご参照ください。 URL： https://mec.disclosure.site/j/sustainability/activities/environment/tcfdf/					

■活動指標

	単位	コード	オフィス	商業／SC	娯楽施設	ヘルスケア	駐車場	その他
資産サブセクターごとの資産数	件	IF-RE-000.A	54	18	4	3	1	2
資産サブセクターごとの賃貸可能床面積※	㎡	IF-RE-000.B	4,981,804	699,525	471,559	11,970	21,430	4,973
資産サブセクターごとの間接管理資産の割合	床面積 当たりの%	IF-RE-000.C	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%	50.0%
資産サブセクターごとの平均占有率	%	IF-RE-000.D	96.4%	97.0%	99.1%	76.3%	-	100.0%

※延床面積を表示